

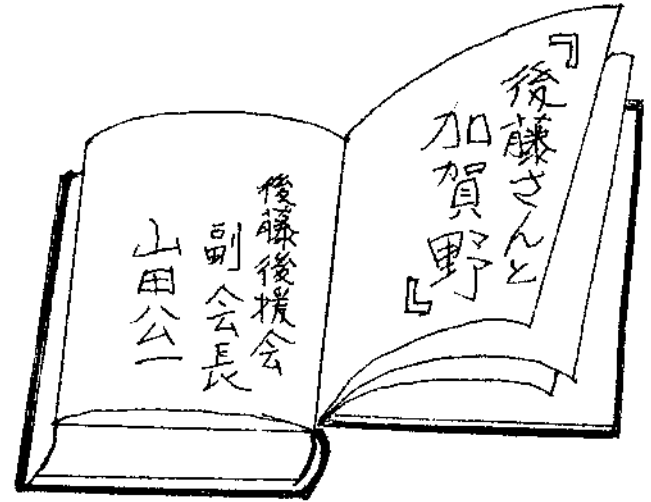
盛岡市議会議員 後藤ゆり子

後援会だより

第1号

2009. 3. 25

発行/後藤ゆり子後援会事務所, 〒020-0807 盛岡市加賀野1丁目7-3.



後藤さんが市議会議員になって二年がたった。祖父の後藤清郎さんは、岩手日報従業員組合代表として、会社の刷新を唱え成功して数年後やはり市議会議員に当選している。私の祖父大矢馬太郎

は、当時の市長でお付き合いもあった。

その頃農地を開発しながらの加賀野土地分譲事業が上手くいかず、昭和初期盛岡金融破綻の直後に再び銀行を潰す訳にはいかないとしてどちらも義理で買ったらしい。

以来、六十有余年が過ぎた。後藤さんも私も、祖父には会ったことがない。だから、後藤さんは現代政治を蝕む二世議員ではない。

後藤さんが最初国政を目指された時に、私は後藤さんを支持していない。

今ひとつ理解できなかった。今でも様々に揶揄する声もある。しかし「盛岡人特有の陰の声」を打破する意味で、これまでの議会活動は目を見張るものがある。

本年の加賀野城南地区は、先進的な地域だった。これを実行しているのが、後藤ゆり子さんである。



いのことと生活を考える会 主催

日本の食糧問題を考える「学習会」

有意義な講演、活発な質問

去る二月二十二日(日)午後一時から、岩手農政事務所藤沢豆様を講師に、サンセール盛岡で開催された。

農業入り餃子事件等もあって、食糧問題とりわけ食の安全への関心が深まったこともあり、出席者は七十五名だった。

講師は、「いちばん身近な『食べもの』の話」のやさしく語りかける内容のイラスト入りの美しい資料を基に

して、くわしく聞いていねいにお話くださった。

日常口にしていいる食材の多くは輸入品で占められていることは分かっていたが、グラフや表をもとに実態を指摘され、国内産品の少なさを痛感しながら聞き入っていた。

講話の後、残飯処理、食育、減反問題等活発な質問、意見交換があり、地産地消の重要性を確認しあった有意義な一時間半だった。



歌あり、踊あり、
ほいほいかな語りあり
大いに盛り上がった
二時間半……

二月二十二日(日)、学習会の後にサンセール盛岡で、七十八名が参加して、後藤

後援会主催の懇親会が開かれた。

会は、小野崎剛様の司会で始まった。

挨拶・乾杯が済むと早速演芸披露となり、司会者の名調子によって次々とステージに上がった。切れめなく続く歌や踊りは、「友愛」「連帯

のメッセージとなって出席者の心にしみ通った。

出席者は顔見知りの人が多いが、なかには初対面の人もいた。しかし、和やかな会場の雰囲気せいもあり、たちまちうちとけて旧知の仲のようになつた。どのテーブルも、話が弾んでいた。

胸襟を開いて語り合い、仲間意識を確かめ合ってお開きとなった。